

第43回まなびや講座

日時 2019年7月14日(日) 1:30~4:30

会場 城沼公民館(館林市松原町 1-22-22)

佐野一行田線:レストラン・バーミヤン東、
〈駐車場が満車の場合は、市役所南面駐車場をご利用ください〉

資料代:1,000円

テーマ 晩年の田中正造—河川調査と水の思想、

県北から県央の活動

講師 大嶽浩良さん(栃木県歴史文化研究会顧問)

【要旨】 明治34(1901)年12月、世論の関心を集めるために田中正造は天皇に直訴したが、正造の意に反した方向に進んだ。35年3月、桂内閣のもとで第2次鉱毒調査委員会設立、8月大洪水。36年、渡良瀬川下流域に遊水池を設ける答申が出された。37年栃木県知事白仁(しらに)武は谷中村買収案を栃木県議会に可決させた。明治40年8月、谷中村強制破壊直後に大洪水。正造は谷中村の遊水池化は無効と確信、利根川逆流阻止・関宿石堤取り払い運動を起こし、谷中村復活と結ぼうとした。以後、千葉・東京にまで及ぶ河川調査に取り組んだ。正造の治水論、黒羽・宇都宮・氏家周辺でのエピソードをまとめます。

大正2(1913)年、正造は河川調査の途上で倒れた。谷中村を遊水池にする渡良瀬川改修工事に反対するための踏査であった。

最後に、青木義雄と正造の結びつきを紹介します。氏家(現さくら市)出身の実業家・青木義雄は内村鑑三に師事した敬虔なクリスチャンでした。同家には、田中正造の書いた「徳不孤」の扁額と正造の写真が残されています。内村と正造の交流が青木と正造を結びつけたのです。

【講師プロフィール】 <おおたけ ひろよし さん>

1945年3月宇都宮市生まれ。横浜市立大学文理学部人文学科日本史課程卒業。1968年~2005年栃木県立高校教諭。栃木県歴史文化研究会常任委員長などを歴任。真岡市史・南河内町史・芳賀町史・今市市史・二宮町史・氏家町史編纂に参加。

主な著書 『栃木県の歴史』(共著、山川出版社)、『日光道中と那須野ヶ原』(共著、吉川弘文館)、『下野の戊辰戦争』(下野新聞社)、『下野の明治維新』(下野新聞社)、『若き日の野口雨情』(共著、下野新聞社)等